

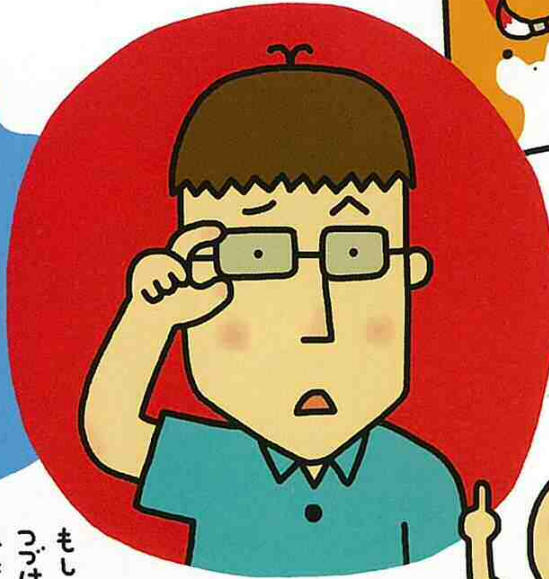
Tomorrow

第7号

ともにすてっぴ



同じクラスにちょっと
秀キで絵のうまい
男の子がいました。



私は「おしゃ
ライバルへった。」
と思いました。

もし絵を
つづけていたら
立派な画家に
なっていたかも
しれません。



私から見た男の子の重荷

美大へ進学する
決意を固めていた私が

「美大へいくんやろー」

と聞くと

「いや、僕は普通の大学。」

男は将来家族を

やしなわなきゃいけないからね。」と

ちゅっぴり悲しそうに言いました。



絵・文 仲田万里子

自分らしさを見つけよう
男らしさ、女らしさを
考える



自分らしさを見つけよう

男らしさ、女らしさを考える

あなたは、こんな経験がありませんか？

あなたが、今までに言われたり感じたりしたこと
にチェックをしてみてください。

「もっとお行儀よくしなさい」と言われた

「泣いたらだめ」と言われた

「家のことを手伝いなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「しっかりしなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

「おとなしくなさい」と言われた

女性と男性では、チェックする項目に少し違いがありませんか。

女性の場合、「女の子だから、もっとお行儀よくしなさい」と

言われた経験のある人は多いのではないのでしょうか。

逆に**男性**は、「男の子だから、もっとしっかりしなさい」と

言われたことのある人が多いのでは。

このように、性別によって異なるふるまいや行動を期待され、

性差として形づくられることをジェンダーと言います。

「ジェンダー」とは

身体的な性別に対して、社会的・文化的な性別を指す言葉です。
女らしさ・男らしさのように社会的・文化的につくられる性別・性
差のことで、その時代、その社会が女性・男性に「こうあってほしい」と期待する役割・イメージを反映しています。

まわりの人々はどうでしょう。

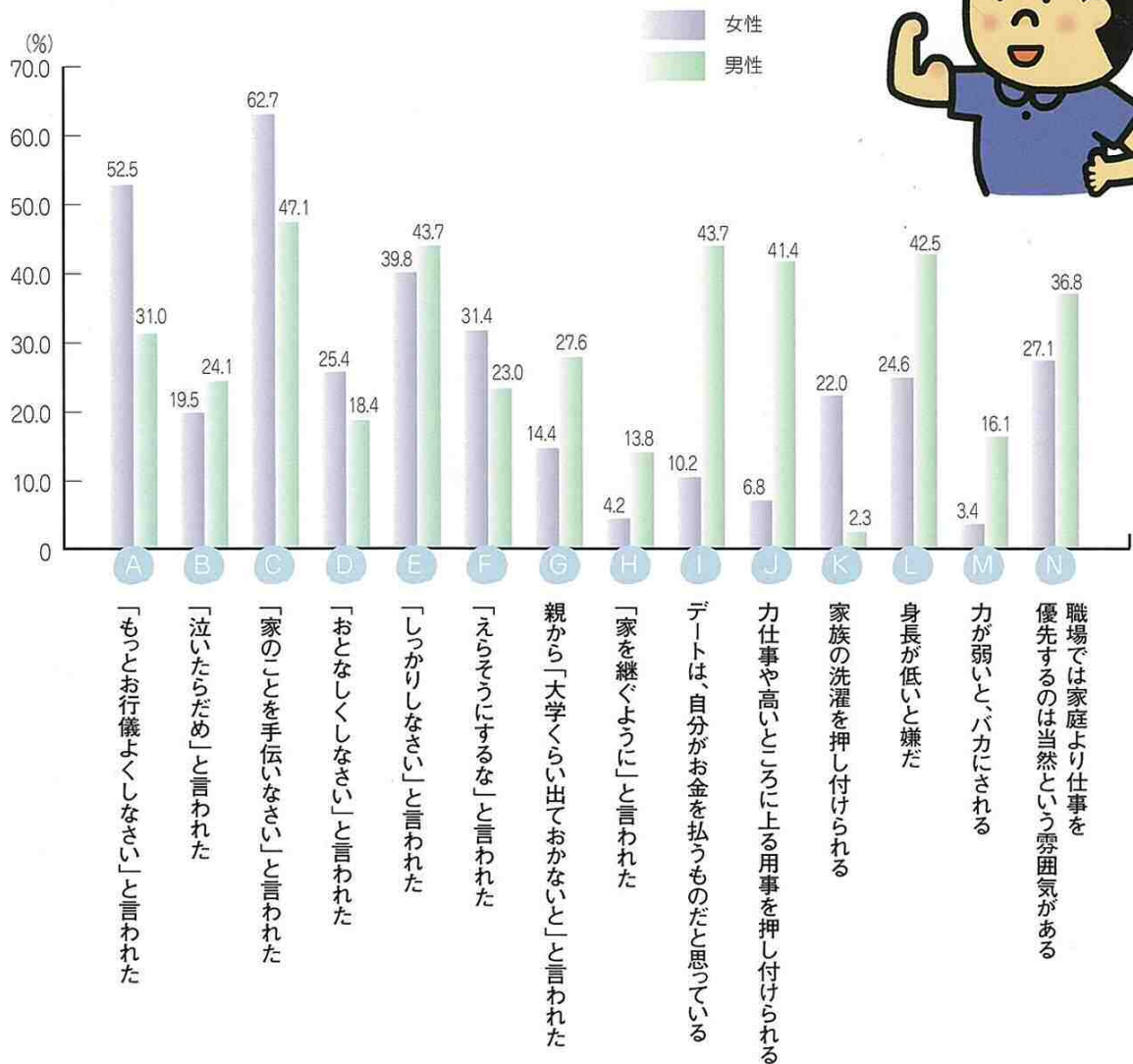
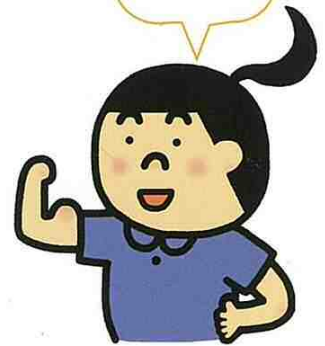
左の質問を藤井寺市に住む人たちに聞いてみました。

「もっとお行儀よくしなさい」、「家のことを手伝いなさい」、「おとなしくしなさい」、「えらそうにするな」と言われた経験があるのは女性に多く、また女性は「家族の洗濯を押し付けられる」と感じている人が多くなっています。

逆に男性は、「泣いたらだめ」、「しっかりしなさい」、「大学くらい出ておかないと」と言われた人や「家を継ぐように」と言われた人が多くなっています。さらに「デートは、自分がお金を払うものだと思っている」人が多く、「力仕事や高いところに上る用事を押し付けられる」、「身長が低いと嫌だ」、「力が弱いと、バカにされる」、「職場では家庭より仕事を優先するのは当然という雰囲気がある」などと感じているのも男性が多くなっています。

まわりの期待や要求に無理にあわせようとしたり、押し付けられていると感じるときは、本当は自分はどうしたいのかを考えてみることも必要でしょう。

女だけど
たくましいよ。



アンケートは、藤井寺市に住む10歳代から60歳代の男女205人に回答してもらいました。



大阪経済大学教員

伊田 広行さん

「シングル化する日本」「シングル単位の社会論 ジェンダー・フリーな社会へ」「シングル単位の恋愛論 ジェンダー・フリーな関係へ」などの著書がある。

自由に生きる

性役割の意識はまだ根強い

男女の性役割について、ふだんから意識している人はあまりいないので、性役割を明確に否定する人はまだまだ少ないですね。そんな中でも女性に性役割をみなおそうとする人が多いのは、女性の方がしんどかったり損だと感じられる場面が多いことと、公民館等で学習する機会が多いからです。性役割について学ぶ場の少ない男性は、仕事中心でない生き方もあるということが見えていなくて、これしかないと思ってあきらめて、人生の選択肢を排除している面があります。

男性である僕がジェンダー・フリーな考え方になるに至ったわけ

子どものころから、親や周囲の先生達はいろんな面で自由にさせてくれましたよ。また本や映画の影響を受け、自由に生きることや平等について深く考えるようになりました。人として自由を求めることと今の社会を変えることはつながると思っていました。その延長上に男女平等も当たり前、な感じ。

実は、学生時代の強烈な失恋体験が、男女の関係、結婚制度について深く考えるきっかけになったんですよ。彼女に他に好きな人ができて言われたことが、「この本よかったから読んでみてと言われてたり、いろんな考え方を示されたりするのが、先生みたいでしんどかった」ということなんです。僕は、彼女とはお互いを高めあって共に成長するのがいい関係と思ってしていたことが、いわゆる上から僕の考えを押しつけている面があることに気がついた。

自分らしく自由に生きたいから

さらに男女の関係について考えていくと、今の社会の仕組みには不満を感じました。じゃ、どうしよう？と思って行き着いたのが「シングル単位」「個人単位」の

考え方なんです。

社会全体が「家族」を単位としているから、税金、戸籍、年金、労働問題の矛盾が起こっていると考えています。基本は「一人」で、働ける人は誰もが働き、家事など自分のことは自分でやる。誰もが働くから、一人当たりの労働時間が短縮され、自由時間が増えるはず。さらに子育てや高齢者介護などは社会全体で支えあう仕組みができれば、女性も男性ももっと自由な生き方ができるようになるはず。男性だって家族のためにと一生働き続けなくても、自分で生き方を決め、やりたいことがやれるようになると考えます。

僕がこうしたことを考えるのは、自分が自由に生きたいから。だから相手も束縛せず自由にしてほしい。



マニュアル人生からアートな人生に

親や先生、会社に言われた通りに生き、世間の常識にあわせるのがマニュアル人間だとしたら、自由に生きるのアーティストになるということ。これまでのマニュアルを振り払ってジェンダーにとらわれず、自ら自分の生き方を決めることは、慣れていない人にはしんどい生き方です。

だから、小さいときから子どもには「あなたは何をしたいの？」と問い続けるべきです。自分が何をしたいのかを考えて決めていくという訓練が必要です。人が変わることによって、政治、社会の仕組み、法律も変わっていく。今はその過渡期なんです。

もっと、知りたい人へ

ジェンダーをテーマにした本を、ネットワークルームで借りることができます。



AERA MOOK 「ジェンダーがわかる」

「ジェンダーって何？」という素朴な疑問から、ジェンダーをあらゆる視点から考察することまで、内容豊富な一冊。読んだ後、自分のジェンダー論を語りたくなるかも…。



メディアがつくるジェンダー 日独の男女・家族像を読みとく

自分がいかにメディアの影響を受けているかに気づきます。あなたの、テレビ・新聞・雑誌を読む目が変わる一冊。

幼稚園のとき



いや、人の頭かじるのは人間としてやっちゃダメです。あわり

絵・文 仲田万里子



「じゃ、男の子だったらかじていいの!」



「女だてらに男の子の頭かじるなんて!」



母は怒りました。「女だてらに男の子の頭かじるなんて!」



仲の良かったこうちゃんてけんかしました。

男らしく 女らしくではなく 人間らしく



「ジェンダー・フリーの絵本」 (小・中学生向け 全6巻) 大月書店

女の子はスカートもズボンもはくのに、何故男の子はスカートをはかないの? 何気ない日常の疑問を子どもと話してみませんか。



「お笑いジェンダー論」 瀬地山角

日常の身近な事柄をジェンダーの観点から取り上げて、面白く読ませます。無意識に交わっている会話も見方を変えてみれば…。

のぞいてください。 ネットワークルームができました。

パープルホール(藤井寺市立市民総合会館本館)3階に、女性ネットワークルームができました。

図書や資料、インターネットのできるパソコンを備えています。休館日(木曜日・年末年始)以外の午前9時から午後5時までオープンしていますので、自由に活用してください。



藤井寺市では、女性のための相談室を設けています。相談員の西原さんにお聞きました。

自分がどうしたいのが、 それが答えです。

相談に訪れる人の中には、「今まで自分の悩みをどこに相談していいかわからなかった」と話される人が多く、インターネットなど情報を得る手段は増えても、必要な情報が届いていないと感じます。

「離婚」に関する相談や、夫の借金や暴力などが原因で、具体的な問題解決のための情報が必要な場合は、法律相談や行政の支援の窓口を紹介することもあります。

相談に訪れたとき、多くの人は混乱していますし、「こういう場合どうしたらいいんでしょう」と答えを求め人もいます。そういうときは、時間をかけて

話を聞き、「自分はどうしたいのか」を引き出すようにしています。男性が会社人間と言われ、自分らしく生きることが難しいように、家庭にいる女性も“よい妻”“よい母親”になろうとして、自分がどうしたいのかを考え、自分の素直な気持ちを周囲に伝えることができない状態であるように感じられます。自分の選択したことが結果的にうまくいかなくても、自分の気持ちを確かめながら人生の選択をすることが、納得のいく生き方につながると思うのです。

女性のための相談室相談員

西原 弘子さん

女性のための 相談窓口

●女性のための相談室

場所:パープルホール(市民総合会館本館)3階
毎月第4火曜日 午前10時~午後3時
(予約制)自治推進課(39-1111内線1714)
までご連絡ください。当日に空きがあれば随時
相談をお受けしますので、パープルホール3階
受付までお越しください。

●大阪府立女性総合センター

(ドーンセンター)

(電話相談専用)

電話:06-6937-7800

火・水・木・金 午前10時~午後4時、
午後6時~午後8時

土・日 午前10時~午後4時

●大阪府女性相談センター

住所:東大阪市永和1丁目7番4号

電話:06-6725-8511

午前9時30分~午後4時30分

(土・日・祝日、年末年始は休み)

一時保護の相談は、年中24時間受付。

編集後記

●初回の「来たら得する女性講座」を受けて、ジェンダーという言葉を知りました。それからいろんなことを学びました。ジェンダー・フリーというのは、人間が自分を大切に、自分らしく生きていくのにとても重要だということをお伝えされたら、という思いで企画しました。(Y)

●編集担当になって、いろいろな本を読んだり、行ったことのない場所に行く機会ができました。今回は、伊田先生のお話を直接聞いて本当によかったです。私の今までの人生を見直し、少しずつ変えていけたらいいなと思っています。(R)

●今まで手にもしなかったジャンルの本を読むようになり、ふだん耳にする何気ない会話にも「これってヘンじゃない?」と思うようになりました。私の中の意識が少しずつ変わりつつあるように思います。伊田先生のお話を伺い、あるべき日本の未来の姿を垣間見たような気がしました。(Y)